

2021年度 国公立大学入試・ 私立大学入試の特徴

日本史

学校法人 河合塾 日本史講師 平野 岳美

1 国公立大学入試の特徴

一般的に国公立大学の入試に地歴を課す大学は多くはない。たとえ課していても文学部を中心に一部の学部・学科のみに課している場合が多く、文系全学部で地歴を課している大学は数えるほどしかない。したがって、採点の負担が少ないということもあるのであろう、出題形式として論述問題を課すところがほとんどである（高崎経済大学のみは論述問題を出題していない。昨年初めて出題されたが今年度はなくなった。ただし、世界史や地理では出題されているので復活する可能性もある）。

ただ、出題形式はさまざまで、論述問題のみの大学、単答問題と論述問題の併用でも論述問題の比重が高い大学、単答問題が多く出題される大学に分かれる。論述のみの大学は、東京大学、筑波大学、大阪大学、東京都立大学などであり、併用でほとんどが論述問題である大学としては、一橋大学、信州大学、名古屋大学、愛知教育大学などがあげられよう。その他の大学では単答問題がそれなりに出題されるが、難関大が多いにもかかわらず、難関私大に比べると問うている用語はそれほど難しくなく。しかし、記号問題はほとんどなく、正確に漢字で書ける知識が要求される。また、正誤問題も少ないのが特徴的で、これらは共通テストを受験していることが前提であることの影響だと思われる。

次に2021年度の国公立大学入試における出題テーマの特徴を見ていこう。

(1) 古代・中世史のテーマ

古代史では7世紀史の出題が多かった。例えば北海道大学第1問 問2では白村江の戦いを巡る国際情勢と日本の対応が、愛知教育大学第1問 Aでは例題1のように7世紀の国際的緊張と日本の中央集権化政策が、筑波大学第1問では8世紀まで含まれるが、日本の律令の編纂過程について、千葉大学第1問では白鳳文化の特色について、それぞれ出題されている。7世紀史は情報がそれほど多いわけではないので、外交と政治・文化との関

連を中心にしっかり学習しておきたい。こうした学習には『図説日本史通覧』（以下、『通覧』）p.54の年表などを利用して指導していくのも有用だろう。

■例題1 2021年度 愛知教育大学：第1問 A

A 7世紀、隋・唐による高句麗侵攻がもたらした国際的緊張の下で、周辺の朝鮮半島の諸国や日本は中央集権化（権力の集中）を進めたとされる。それについて、あなたの知っている歴史上の出来事をあげながら、以下の①と②をすべて含めて文章化し、200字程度で述べよ。

- ① 日本は、中央集権化のために、どのような方策を進めたのか。
- ② 日本は、①によって、どのような国際的な対応をとることが可能になったか。また、なぜそれが可能になったと考えられるか。

次に古代・中世史にまたがるテーマとしてやはり土地制度に関連する出題が目立った。例えば北海道大学第1問 問9では平安時代前半の地方政治の変化を問い、東京大学第2問では13世紀の荘園に関する4つの文章の示すエピソードから荘園領主の検注実施の理由と地頭請の地頭の荘園支配における役割をそれぞれ問うた。また、一橋大学第1問では例題2のように前近代の土地制度と税制を、信州大学第1問では例題3のように古代から中世の地方支配を、東京都立大第2問では中世の荘園公領制の展開と解体をそれぞれテーマとした問題文を用意し、各設問を設けている。地方支配・土地制度・税制は関連しており、古代・中世史の国家体制の根幹に関わる最も重要なテーマの一つであるから、このように多く扱われるのであろう。ここでは古代・中世それぞれ1問ずつ設問のみ紹介する。

■例題2 2021年度 一橋大学：第1問 問2

問2 下線部 (b)（開発領主による権門勢家への所領寄進と荘園形成（立荘））について、荘園公領制の成立の前提として、公領における開発領主の地位の変化を説明しなさい。（第1問は全4問で合計400字以内）

■例題3 2021年度 信州大学：第1問(3)

(3) 下線部(b)(公武の二元的な支配体制)の具体的な内容を、次の語句を用いて100字以内で説明しなさい。ただし、各語は少なくとも1回は使用し、下線を付すこと。
【語群】 国衙 荘園領主 朝廷

なお、土地制度については『通覧』p.326-329に簡潔にまとめられているので、一度確認しておきたい。

(2) 近世史のテーマ

近世史では江戸時代の政策を扱った問題が多かった。前半は文治政治への転換を、後半は社会経済との関連を問うている。おもに前半を扱った問題としては、**新潟大学**第3問では近世の政治と学問の関係について、**愛知教育大学**第2問 問2では將軍家綱期の文治主義の政策を、**京都大学**第4問(1)では**例題4**のように將軍家綱の時代を、**東京外国語大学**第2問 問6では新井白石の国内外に対する経済政策をそれぞれ問うている。後半については、**大阪大学**第3問では寛政の改革の農村復興政策を、**東京学芸大学**第3問 問3では18世紀中頃から後半の藩政改革をそれぞれ問うている。

■例題4 2021年度 京都大学：第4問(1)

(1) 徳川家綱の時代はどのような時代であったか、政治を中心に他分野の動向もふまえて説明せよ。(200字以内)

この問題は、文治政治への転換の事実関係だけを書けばよいのではなく、「他分野の動向もふまえて」とある以上、社会経済や文化との関係も含めて家綱の時代を総合的に論じる必要がある。政治・政策を問う設問であっても常にその背景となる外交・社会経済・文化の動向との関連を意識して学習していく必要がある。

(3) 近現代史のテーマ

近現代史の出題テーマは多岐にわたり、何か一つを取り上げることは難しいが、やはり全体として「民主主義」を意識させる出題傾向は顕著である。文明開化から自由民権運動が盛り上がる中での近代国家の形成、その後の政党の動向と政党政治の展開、そして軍部の台頭とファシズムの進展という近代日本がたどった「民主主義」の形成と崩壊という大きな課題は現代社会におけるわれわれの課題でもあるからであろう。例えば**筑波大学**第4問では明治時代の雑誌の変遷をテーマに思想と社会運動の展開を問い、**東京大学**第4問 Aでは民権派への対抗措置としての華族令の内容と目的を問うた。**大阪大学**第4問

は地租問題をテーマに政党勢力と藩閥政府の関係を問い、**東京都立大学**第4問では統帥権干犯問題と2個師団増設問題を取り上げた。**一橋大学**第3問は近現代の女性をテーマに「民主化」の歴史を考えさせる問題であった。また、**愛知教育大学**第3問は「政党政治と軍部」をテーマに論じる問題(問題は後掲)を出題している。テーマはそれぞれ違うが、根底に「民主化」とそれに逆行する昨今の動向という共通テーマがあることはみてとれるだろう。

(4) 「世界の中の日本」を意識した外交史

各時代を通じて、外交史からの出題も多い。これは「世界の中の日本」という世界史との共通するテーマを意識した出題傾向だと考えられる。古代・中世史では、前述した**北海道大学**第1問 問2や**愛知教育大学**第1問 Aが7世紀を扱い、**九州大学**第1問 問8では平安時代の日宋交流を、**千葉大学**第2問では鎌倉時代の日中貿易とその国内への影響を問うている。近世史では、定番の鎖国体制下の国際関係が**筑波大学**第3問などで出題されており、列強の接近と幕府の政策関係の問題は**九州大学**第3問 問10や**東京都立大学**第3問 問1などで出題されている。近現代史では、**京都大学**第4問(2)は第一次世界大戦中から太平洋戦争開戦までの日米関係を、**東京学芸大学**第4問 問12では戦後の国際関係を出題している。こうした「世界の中の日本」というテーマを理解するには、全時代を通じて視覚的学習は有用で、その点では『通覧』のp.4~22の「東アジア全図でみる日本史」が大変有効である。

(5) 共通テストの影響

最後にセンター試験から共通テストへの変化の影響をみておきたい。この変化でとくに重視されたのは思考力・判断力だが、当然国公立二次試験の論述問題はこの方向性に合致したものであり、したがって、今後も大きな変化はないと考える。ただ、今年度の**愛知教育大学**第3問は注目すべき出題である(**例題5**)。

■例題5 2021年度 愛知教育大学：第3問

第3問 あなたは、現在の日本の政治制度を歴史的に理解するため、「政党政治と軍部」というテーマで学習に取り組むことになったとする。そのさい、あなたが重要と考える1924年~1940年の歴史的出来事の中から、政党と軍部との関係が変わる契機となったと考えられる出来事の一つ取りあげよ。そして、その出来事が、現在の政治制度にどのように影響しているかあなたが考えているかわかるように、300字程度で述べよ。述べるにあたって、次の3点に留意すること。留意点は、それをふまえていれば必ずしも番号の順序で述べなくても良い。

- ① 取り上げた歴史的出来事の名称と、どのような出来事かを簡潔に述べること。
- ② なぜ、その出来事が起きたか、その背景も述べること。
- ③ その出来事が起きた前後での変化がわかるように述べること。

このような自分で時代の画期となるできごとを選んで論じさせるような問題は、従来は教育系大学でしばしば見られたものである。しかし、共通テスト試行調査で画期を選び意義を選択させる問題が出題されていることを鑑みれば、こうした出題形式が教育系大学に限らず今後増加していくかもしれない。

2 私立大学入試の傾向

私立大学で地歴を受験科目に課す大学は膨大であり、そのすべてに共通する傾向があるわけではないが、全体的なやはりとでもいうべき傾向はあり、それは今後もしばらくは続いていくと考えられる。

(1) 1980年代から90年代の現代史

出題テーマとしてここ数年増加傾向がみられるのが、1980年代から90年代を扱った現代史の設問である。令和と年号が変わり、平成が歴史になったということであろうか。本年度でも慶應義塾大学商学部の第3問では問題文の後半で80年代以降の政治史を取り上げ、2000年代まで幅広く設問で扱っていた。また、早稲田大学法学部第4問も円とドルの為替レートの変遷をテーマにバブル経済まで扱った問題が出題された。この他にも大問では扱ってなくてもこの時期の現代史を枝問レベルで扱った問題は多い。

■例題6 2021年度 青山学院大学：全学部 第3問 問15

問15 下線部㉔(原子力発電)に関連して、次のⅠ～Ⅲの出来事を発生した順に正しく並べたものを、以下の選択肢の中から一つ選びマークしなさい。

- Ⅰ 高速増殖炉「もんじゅ」(福井県)のナトリウム漏洩事故
- Ⅱ 東海村原子炉の点火
- Ⅲ チェルノブイリ原子力発電所(ソ連)の原子炉爆発事故
(選択肢省略)

論理的に「点火」が先と考え、あとは「もんじゅ」の事故が新しいとしてⅡ－Ⅲ－Ⅰを選ぶことは可能だが、受験生にとってはⅠもⅢも生まれる前の話であり、現代史の正確な知識が必要である。

■例題7 2021年度 成蹊大学：経済学部 第4問 問9

問9 下線部(ウ)の細川護熙内閣時の出来事に関する以下の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- ① 「日章旗」を国旗、「君が代」を国歌とする国旗・国歌法が成立した。
- ② 日米首脳会談ののち、日米安保共同宣言が出された。
- ③ 選挙制度改革が実施され、小選挙区比例代表並立制が導入された。
- ④ 日本郵政公社が解散され、郵政民営化法が制定された。
- ⑤ 国際協力を求める声が強まるなかで、PKO協力法が成立した。

いわゆる誤文はないので、細川護熙内閣で選挙制度改革が行われたことを覚えていれば正解できるが、他の選択肢の中には2000年代のものもあり、注意が必要である。とくにPKO協力法、新ガイドラインの関連法、テロ対策特別措置法などの国際協力関連の事項や原子力発電関係、環境問題(京都議定書など)などの出題が多くみられ、政治史と関連付けて押さえておく必要があろう。

(2) 蝦夷地・北海道史 琉球・沖縄史

やはり蝦夷地・北海道史と琉球・沖縄史の出題は多い。本年度も前者では学習院大学法学部第1問、後者では慶應義塾大学経済学部第3問、早稲田大学教育学部第4問などが大問レベルで扱っている。

■例題8 2021年度 早稲田大学：教育学部 第4問

Ⅳ(前略)明治政府は、廃藩置県で琉球を鹿児島県に編入し、翌年には琉球藩を設置して、最後の国王尚泰を藩王としたが、1879年には、沖縄県の設置を一方向的に決めた。これを と呼ぶ。これにより、近代日本の国土が確定した。

1945年3月下旬、アメリカ軍の大部隊が沖縄攻撃作戦を開始し、4月、沖縄本島に上陸した。(中略) 沖縄戦が始まった。(中略)

沖縄戦後、沖縄は日本本土から切り離されてアメリカ軍の占領下におかれた。1952年、サンフランシスコ平和条約が発効すると、日本は独立を回復したが、沖縄はアメリカの施政権下におかれた。(中略)1971年に 沖縄返還協定が結ばれ、翌72年、沖縄の日本復帰が実現したが、沖縄にはアメリカ軍基地の多くが存在している。

問1 空欄 にあてはまる語を、漢字で記せ。

問5 下線部cの説明として、正誤の正しい組み合わせはどれか。一つ選べ。

- ① 沖縄の中学校や高等女学校などの生徒たちは、鉄血勤皇隊やひめゆり学徒隊などに編成された。

- ② 沖縄の住民のなかには、日本軍によって集団自決を強いられたり、スパイ容疑で虐殺されたりした人びとがいた。
- ③ 日本軍は、沖縄戦を本土決戦準備の時間稼ぎとして位置づけ、物資補給は現地調達で持久作戦をとったので、犠牲が甚大になった。
(選択肢省略)

問8 下線部fの説明として、正誤の正しい組み合わせはどれか。一つ選べ。

- ① 1960年代の沖縄では、日本への祖国復帰運動が盛り上がった。
- ② アメリカは、沖縄基地機能安定のために、佐藤首相・ジョンソン大統領会談で施政権返還を約束した。
- ③ ベトナムにおける共産主義の拡大を恐れたアメリカは、北爆によりベトナムへの軍事介入を本格化させた。
(選択肢省略)

筆者注：沖縄関連の設問のあるところを中心に問題文を引用した。下線・空欄及び設問は沖縄関連のもののみ残した。

蝦夷地・北海道史と琉球・沖縄史の学習には『通覧』が有用である。中世・近世・近代・現代にそれぞれの【特集】が組み立てられており（現代は沖縄史のみ）、詳しく、そしてビジュアルにまとめられているので整理しやすい。

(3) 疫病史 災害史

今年度は新型コロナウイルス流行を背景に疫病史を扱った問題も散見された。関西大学2月3日日程第4問では全面的に扱っている。法政大学2月7日日程第4問でも問題文後半に新型コロナウイルスの感染拡大を話題にし、その「感染」に下線を引いて例題9のように発問している。

■例題9 2021年度 法政大学：2月7日日程 第4問 問12

問12 下線部(11)の感染に関連して、つぎのA~Eのなかから正しいものを一つ選び、その記号をマークせよ。

- A 1894年、北原白秋は今日感染症の一つとされるペストが流行する香港に出張、調査し、その病原体を発見した。
- I 1897年、志賀直哉は今日感染症の一つとされる赤痢の病原体を発見した。
- ウ 随筆『病牀六尺』を残した西園寺公望は、今日感染症の一つとされる結核を患い、1902年に亡くなった。
- E 1918年から世界中で猛威を振るったインフルエンザは、今日感染症の一つとされるが、山内保らはその病原体を発見した。

設問自体はまったく難しくなく、北里柴三郎がペスト菌、志賀潔が赤痢菌を発見したという基本知識と西園寺公望の活躍時期を知っていればア・イ・ウの人名が誤りで、消去法でエを選ぶという簡単な問題であるが、北里柴三郎と志賀潔は先述の関西大学の問題でも出題されており、医学関係の出題は今後要注意かもしれない。

こうした傾向が今後続くかどうかはわからないが、疫病流行だけでなく、地震・火山噴火・飢饉などの災害史は盲点となりやすい。とくに東日本大震災以降、それなりの出題実績があるので『通覧』p.323「日本史における巨大地震と人々」などを活用してまとめておきたい。

(4) 図版資料(彫刻・絵画・建築など)を使った問題

次に設問形式で注目されるのは文字資料ではない絵画などの図版を使った問題である。それも絵画を示して作品名を選ばせる、もしくは作品名から該当する図版を選ばせるといった単純な問題ではなく（もちろんそうした出題も少なくないが）、例えば中央大学文学部第2問 問9では写真の仏像に関する説明の正誤を判定させる問題、東海大学2月2日日程第1問 問10では図版の中から中国から伝わったものを選択させるという、作品の背景を問う問題などが出題されている。そして、早稲田大学教育学部第2問では鎌倉の地図と『一遍上人絵伝』（設問の選択肢は『一遍聖絵』）の一遍集団が鎌倉に入ろうとする場面の図版を用いて、教師と生徒の会話で図版を読み解いていく問題が出題された。図版読み取り問題に対してはやはり訓練を積んでおくことが有効であり、その際には『通覧』が便利である。巻頭5~8では絵画資料の読み解き演習があり、また、各時代各所に絵図・彫刻・絵画・建築などの図版が説明とともに掲示されており、日常的にこうした図版資料に慣れ親しんでおくことが図版読み取り問題対策として必須であろう。有効に活用してほしい。

(5) 共通テストの影響

最後にセンター試験から共通テストへの変化の影響をみておきたい。先述のとおり、この変化で特に重視されたのは思考力・判断力だが、それを問いやすいのは論述問題である。慶應義塾大学文学部・経済学部など一部の大学・学部では出題されているが、受験生の多い私大入試では採点の労力からいってほとんどの問題を論述問題にするなど不可能である。したがって、史料問題や正誤問題を利用してこうした能力をはかることになろう。今後、そうした傾向が進み、共通テストの形式に類似する形式の問題が増加する可能性は十分にあるだろうと考える。